

四日市あすなるろう鉄道を応援しよう！

(応援プロジェクト)

2013年頃、近鉄内部線廃線の話が出てきました。

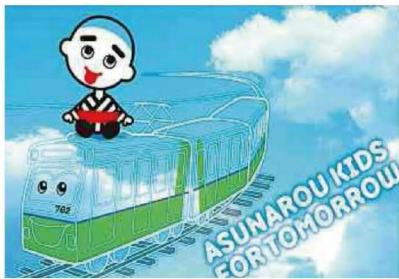
近鉄は、採算か不採算かで、このインフラを廃止しようとしていました。この先高齢化により車が運転できなくなることや、そもそも子どもなどの交通弱者のことを考えていないような話でした。

存続から持続可能な発展へ

そこで、子どもたちを巻き込んだ内部線の存続活動を開始しました。

沿線で手を振る、沿線に花を植えるなど、大人だと3人もいればできてしまうことを、20人ほどの子どもたちの手で仕上げていきます。重いものや危ないものは大人が少し手伝うけれど、土を運んだり、花を植えたり、花の大切さや生きる力を伝えるため、いろいろなことを体験させました。

この活動の中で、子どもたちが「電車に乗ろう」というイベントを企画し、実際に電車に乗ってみました。「一緒に来た保護者が手出しすることは断り、まずは子どもたちにお金を持たせ、切符を買うところからのスタートですが、1年目は大人に教え



られていた子どもが、次の年には他の子どもに教える立場になっていきます。

日永駅から乗って、西日野駅で降り、「日永梅林・登城山」を復活させる会が支援している南部丘陵公園に続く道を歩きます。南部丘陵公園近くで畑を借りて、3月には子どもたちがじゃがいもの苗を植え、6月に芋掘りを楽しみます。そこでカレーを作って、みんなで食べるのが小さな旅の流れです。

電車に乗ることだけではなく、地域の中でこんなに動ける場所、楽しめることを子どもたちに知ってほしいと願っています。

当初は、存続のための応援だったものが、四日市あすなるろう鉄道として再スタートした今は、持続発展させるための応援に変わりました。

あすへのナローキッズ 四日市あすなるろう鉄道 スタンプリナー

平成30年2月10日～3月4日
実行委員会・四日市工業高校 西郷高校・
農芸高校、海星高校 生徒・市民団体

バレンタイン列車

この企画は4年続いています。バレンタインデーに合わせて高校生を中心に、電車の中で「フェアトレード」のチョコレートを無料配布しました。この時、まだ子どもたちは「フェアトレード」を知りませんでした。

高校生たちは、2月には全く知らなかった「フェアトレード」を一生懸命勉強し、3月末には四日市のエコパートナー交流会での発表をやり遂げました。地域の方々がこの高校生の頑張りに賛同し、ホワイトデーにクッキーを届けにくれたことを追記しておきます。

四日市あすなるろう鉄道バレンタイン列車から降りた人たちを次の会場、南部丘陵公園の梅林まつりに誘います。梅林まつりの子どもコーナー「大きなキャンバスに絵を描こう」では、四郷高校の生徒が書道パフォーマンスをし、音楽や歓声とともに、若い力がはじけます。高校生が地域のためのイベントを企画し、準備も運営もします。これ



こそが次世代の育成になります。まずは、理由を作って電車に乗ることから、電車の存在を知ってもらい、良さを見直してもらう活動を進めています。

